

令和石臨技塾企画「見る人に刺さる！魅力的なスライドと伝わるプレゼン講座」

◎岡田 悟¹⁾東京北医療センター総合診療科¹⁾

【講師紹介】

●岡田 悟 先生（医師：東京北医療センター総合診療科/東京北プレゼン部）

総合内科専門医、内科学会指導医、プライマリ・ケア認定医、プライマリ・ケア学会認定指導医、として、日常診療や若手医師の育成に従事。病棟診療チームで親睦を深めるために互いの趣味を発表する「飲み会プレゼン」を発展させ、「東京北医療センタープレゼン部」を結成。現在では SNS やウェブサイトにも留まらず、セミナー等でもスライド作成やプレゼンスキルについて発信している。編著書に「デザインが見える、発表が冴える 三ツ星プレゼンレシピ」（中外医学社、2022年）。

（メッセージ）

みなさんはプレゼンテーションの作り方を学んだことはありますか？医療業界で発表している人の多くはそのやり方を先輩から教わっており、実は体系的に学んだことがある人は少ないようです。「この作り方があってるだろうか？」「発表してもイマイチ参加者に伝わってる感じがしないんだよね」「もっといい方法はないだろうか？」と感じている人は多いのではないのでしょうか。

本セッションでは東京北医療センター総合診療科内で展開している東京北プレゼン部がプレゼンテーションの組み立て方、見栄えのよいスライドの作り方を中心に、「どうやったら自分が伝えたいことを参加者に効果的に伝えられるか」を提案します。

プレゼンテーションの組み立て方では、プレゼンテーションの中心となるメッセージの考え方、それを元にしたコンテンツの絞り方、その効果的な伝え方、構成の仕方などを取り扱います。見栄えのよいスライドの作り方では、スライドのレイアウト、文字、色の考え方やグラフの扱い方、私達が見た目を良くするために頻繁に使用しているテクニックなどの紹介をします。

プレゼンテーションは本来自分伝えたいことを他の参加者に知ってもらうためのワクワクするような機会です。せっかくの素晴らしいメッセージが、プレゼンテーションの作り方がわからないために疑心暗鬼になってしまい不必要にそのハードルが高くなったり、うまく伝わらないのは本当にもったいないです。ぜひこのセッションでプレゼンテーションをしなくなるようなヒントを持ち帰ってください。

【企画主旨（令和石臨技塾）】

臨床検査技師として働く中で、学会での研究成果の発表や、糖尿病教室での患者さんへの説明など、プレゼンテーションをする場面は多くあります。しかし、プレゼンテーションのやり方を学ぶ機会は少なく、準備や発表の際に苦勞することがあるのではないのでしょうか。「どのようにスライドを作れば見やすくなるのだろうか」、「どのように発表すれば聞き手を惹きつけ、うまく伝わるのだろうか」と考え、試行錯誤を繰り返すうちに、スライドの準備や発表が苦手になってしまう人もいるかも知れません。聞き手に自分の発表内容を正しく伝え、興味をもって聞いてもらうためには、プレゼンテーションのやり方が肝心になります。同じ発表内容でもプレゼンテーションの方法が違うだけで、伝わり方ががらりと変わることがあります。日常業務の中でも「伝える」ことの多い臨床検査技師にとって、プレゼンテーションスキルは日々のパフォーマンスに直結するスキルと言えるでしょう。「スライド作成とプレゼンテーションのスキルを学び、身に付けることで、聞き手に伝わりやすい説明や発表ができるようになり、プレゼンテーションへの苦手意識を軽減させたい！」令和石臨技塾メンバーのそんなニーズから、この企画が生まれました。本企画が同じ悩みをもつ多くの臨床検査技師の仲間たちの助けとなれば幸いです。